

図書館かがわ

Library Kagawa

ISSN 1344-5464

2012・4・1

香川県立図書館報

95



～午後の部「障がいのある子と本を楽しむ」(講師：菊地澄子さん)～



～講座会場に展示した
障がいのある子どもが登場する絵本～



～午前の部「子どもの障がいを知る」
(講師：山本麻有里さん)～

「平成23年度子どもの本と読書の講座を開催しました。」

平成24年2月23日(木)に「障がいのある子と本を楽しむ～自閉症・発達障がいの子とともに～」というテーマで講座を開催しました。

午前の部「子どもの障がいを知る」では、山本麻有里さん(香川県教育委員会 特別支援教育課 主任指導主事)から発達障がいについて、講義とLD(学習障害)、ADHD(注意欠陥多動性障害)の疑似体験を交えて詳しく教えていただきました。

さらに午後の部「障がいのある子と本を楽しむ」では、菊地澄子さん(作家、教育相談員、発達相談員)からご自身の豊富な経験を事例をあげて講演いただきました。

一日を通して、図書館職員やボランティアの皆さんをはじめ約40名の方が熱心に受講されました。

★★★県民ギャラリーよりお知らせ★★★



県立図書館では、閲覧室入口の右側にある展示コーナーを県民の生涯学習の成果を発表する場としてご利用いただくため、「県民ギャラリー」を開催しています。

平成23年度は7月5日～3月18日の間で、7企画の参加がありました。絵画や写真、陶芸など様々なジャンルの作品の展示が行われ、製作者の熱意と個性あふれる作品に、多くの来館者が足を止め、見入っていました。

平成24年度も参加者を5月11日（金）まで募集していますので、皆様もこの「県民ギャラリー」を利用して生涯学習の活動を発表してみませんか！！ 多数の参加をお待ちしております。



「古くなった本はどうなるの？」

～県立図書館によく寄せられる質問に
図書館員がお答えするコーナーです。～

県立図書館にはたくさんの古い本があります。本を書庫からお出ししたら、何十年も前の本で、利用者の方にびっくりされることもよくあります。

県立図書館は、図書、雑誌、AV資料を、古くなったという理由では廃棄せず、永年保存することにしていきます。絵本や小説など、長く読まれるジャンルの本はもちろんのこと、その他のジャンルの本も、昔のことを調査する際に役立っています。市町立図書館では、新しい本の置き場所を作るために、古い本を廃棄しているところが多いですが、県立図書館が保存しておけば、必要になった時に市町立図書館へ貸し出すことができます。

ただし、県立図書館は全く本を廃棄しないのかというと、そうではありません。利用されるうちに本は破れたり、ページが取れた

り、汚れたりします。館内でできるだけ修理しますが、修理できないほど傷んだ本は廃棄し、利用の多そうな本は買い換えます。また、長期間、行先不明の資料や、貸出中に利用者の方が汚損、紛失した本は廃棄し、同じ本を弁償していただくこともあります。

本を廃棄するのは残念ですが、利用され、役目を終えた本は処分することで、書架にきれいな本が並ぶようにしているのです。

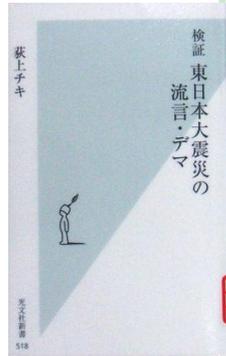


この本おススメです！

～図書館の本棚から、ピックアップ～

「検証東日本大震災の流言・デマ」
 (光文社新書) 荻上チキ/著 (光
 文社) 2011.5
 (請求記号：36145/08/2)

あのころの混沌とした状況の 記録として貴重な一冊



東日本大震災の直後、関東の知人から「有害物質の雨が降るので気をつけて」というチェーンメールが届いたり、「放射能被曝に海藻が効くと聞いたが本当だろうか？」という質問が図書館に寄せられたりしていた。

巨大な被災エリアからの情報が途絶え、原発事故も発生した。専門家さえ安全性についての見解が大きく異なったり、報道される情報が本当なのかが判断できなかつたりする状況に対する不安から、たくさんの流言やデマが出回った。阪神淡路大震災のときと違い、インターネットや携帯電話でのコミュニケーションは常態化しているので、その拡散規模や速度も凄まじいものだっただろう。

この本には、震災直後、巷で話題になっていた流言やデマがたくさん紹介され、分析されている。

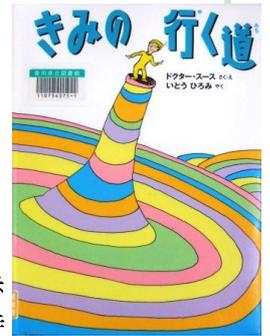
私が印象に残ったのは、「インサイダーからの密告」というスタイルの情報、「拡散希望」とつけられたツイート、「日本のメディアは報じていないが・・・」という言い回し、などには注意が必要だ、という部分だった。

確かに、当時、ウェブなどで「電力会社で働いている知人から聞いたのだが・・・」といった書き出しをよく見かけたし、東京からセレブが避難している、被災地で外国人犯罪が増えている、といった趣旨の情報に戦慄していたことを思い出した。

あのころの混沌とした状況の記録として貴重な一冊だと思う。

「きみの行く道」ドクター・スースさく・え
 (河出書房新社) 2008.2
 (請求記号：J/D53/25)

大人こそ楽しめる絵本



春は、新しい世界への一步を踏み出す季節だ。そんな時期にふさわしい絵本をお勧めしたいと思う。

この絵本は、「現代のマザーグース」と呼ばれたドクター・スースが亡くなる前年、86歳のときに発表された。

「新しい学校(会社)は、どんな所だろう？」と不安を感じている時に、人生の先輩が「気を付けて前に進めば、大丈夫！」と、背中を軽く後押ししてくれる。例えるなら、そんな絵本だ。

読んだ後は、モヤモヤした不安な気持ちが少し晴れ、新しい一步を踏み出す勇気が得られるかもしれない。

アメリカでは、高校や大学の卒業プレゼントとしても人気の絵本なのだそう。

「絵本なのに、大学生が読むの？」と思われる方がいらっしゃるかもしれないが、テーマが「人生」のため、実は、人生の浮き沈みを経験した大人にこそ楽しめる絵本だと思う。

自分の経験してきた事を絶妙な表現で表してくれているので、深く頷く箇所がいくつか。

個人的には、次のフレーズが心にしみた。

「もっとたいせつなのは、ぜったいに／右足のつもりで／左足を出したりしちゃいけないってことですよ。」

うっかり屋への戒めの言葉である。

学校支援文庫「木守文庫」

県立図書館は、小学校や特別支援学校を対象に本をセットで貸し出すサービス「木守文庫（きまもりぶんこ）」を創設しました。

この文庫の図書セットには、小学校の学習内容に沿ったテーマにあわせて司書が選んだ40冊の本が入っています。

平成23年度には、小学校低学年向け図書セットとして、国語科の「言葉」や、生活科の「友だち」など14のテーマで16セットを整備し、貸し出しを開始しました。

平成24年度には小学校中学年、平成25年度には小学校高学年向けを整備します。

この文庫を使って、子どもたちが本に親しみながら、より深く授業の内容を理解してくれることを願っています。

ぜひ、授業や学校図書館でご利用ください。（木守文庫の詳細は、県立図書館HPをご覧ください。）

小学校や特別支援学校関係者の皆さま、
「木守文庫」をどんどんご活用ください！！
ご希望の図書館等で受け取り、返却が送料の
負担なく、利用できます。



(c) KAGAWA Prefectural Library

平成23年12月6日より、インターネット端末6台を当館閲覧室内に設置しました。

これにより、利用者の皆さまの調査、研究に、インターネット上で公開されている電子化された多様な情報をご活用いただけるようになりました。



■ 利用方法

- ・利用時間は1回30分以内で、次にご利用がない場合には、1日2時間を限度に引きつづきご利用になれます。
- ・利用申込書に必要事項を記入し、AVカウンターで端末の指定を受けてください。
- ・資料貸出カード、もしくは本人確認できるもの（運転免許証、健康保険証、学生証など）を提示していただきます。
- ・利用申込み時に、すべての端末が利用中の場合のみ予約ができます。

■ 利用に際して

- ・インターネット端末のご利用は、調査、研究のためのウェブサイト閲覧に限ります。
- ・USBメモリーなどの記録媒体の使用やプリントアウトはできません。
- ・ウェブサイト上の音声コンテンツは、備え付けのヘッドフォンでお聞きください。

編集・発行 香川県立図書館

〒761-0393 高松市林町2217-19（香川インテリジェントパーク内）

TEL 087-868-0567 FAX 087-868-0607

<http://www.library.pref.kagawa.lg.jp/>